

ともに歩むふくしプラン4 第6次佐倉市地域福祉活動計画

社会福祉法人佐倉市社会福祉協議会



マスコットキャラクター
ふうりっぷ 1

佐倉市地域福祉計画との関係

互いに基本理念を揚げ、地域福祉推進の両輪として取り組んでいく。

佐倉市社会福祉協議会理念
ともに歩むふくしプラン4
「わたしもあなたもいっしょにつく
るいきいきと暮らせるまち佐倉」

佐倉市
第4次地域福祉計画理念
「一人ひとりがともにはぐくむお互
さまの地域づくり」

協働・連携



事務局連絡会議
(実務レベルの連携)

地域福祉フォーラム
(実務レベルの連携)

ともに歩むふくしプラン4までの歩み

～佐倉市地域福祉活動計画の経緯～

第1次計画 平成6年度～平成11年度	基本目標 心ゆたかに生きるために
第2次計画 平成13年度～平成18年度	基本目標 ともに生き、ともにつくり上げよう豊かなまち
第3次計画 平成19年度～平成22年度 計画名称 「ともに歩むふくしプラン」	基本目標 ① 支え合いの輪を広げよう ー担い手の充実ー ② 情報を共有しよう ー情報の充実ー ③ 安全・安心はまちを創ろう ー福祉システムの充実ー
第4次計画 平成23年度～平成27年度 計画名称 「ともに歩むふくしプランⅡ」	基本目標 ① 安全・安心なまちづくり ② 交流と支え合いの地域づくり ③ 協働のしくみづくり ④ 分かりやすい情報のしくみづくり
第5次計画 平成28年度～令和2年度 計画名称 「ともに歩むふくしプランⅢ」	基本目標 ① 支えあい活動 ② 災害時要援護者支援 ③ 生活困窮者支援

ともに歩むふくしプランⅢ→ともに歩むふくしプラン4へ

(第5次佐倉市地域福祉活動計画) (第6次佐倉市地域福祉活動計画)

プランⅢの課題	プラン4に向けて
(1) 支えあい活動	
支えあいサービスの活動では地域の専門職や相談機関等との連携が必要。また、依頼に応えるための担い手が不足。	地域住民と専門職や相談機関と一緒に課題を共有できる場づくり、活動の担い手を広げていくための調整役が必要。
(2) 災害時要援護者支援	
自治会との連携方法について模索中。地域にある各団体同士の連携を強化し、支援体制を整備していく必要がある。	要援護者の支援に関わる自治会、民生委員、地区社協、団体等がお互いの立場を理解し、協働できるよう、日頃からつながりを持つような場づくりが必要。
(3) 生活困窮者支援	
地域住民としての取り組み方、関わり方の理解が不十分だった。課題解決のため、専門職や関係機関と連携、役割分担が必要。	個別課題への直接的な支援を通して、地域住民と専門職をつなぎ、地域での見守りが強化できるようにつなぎ役が必要。

基本理念

わたしも あなたも いっしょにつくる いきいきと暮らせるまち 佐倉

基本目標

住民同士の支えあいを活かして、個人を尊重しつつ、誰でも参加できる地域づくりを行います。

重点目標

- 支えあいながら暮らせる地域づくり
- 災害に備える地域づくり
- 気にかける・相談できる地域づくり

重点目標の達成に向けて

1. プランⅢを継承し、その成果を拡充して課題を解消する
2. 住民が課題に気づき、地域で連携して解決へつなぐ
3. 地域でのつながりを意識して取り組む



令和3年4月より 志津南圏域で
地域福祉コーディネーター モデル設置事業を開始

地域づくり

気づきを地域にフィードバック

個別支援

2

課題の共有
と
参加支援

3

地域福祉コーディネーター

地域支援

つながり

住民同士で解決できない
困りごとをキャッチ

新たな取り組み
への伴走支援

住民同士で
解決できない
困りごと

本人
世帯

参加
相談
気づき
支援

- ・地域の居場所
- ・ご近所
- ・自治会町内会
- ・サロン
- ・支えあいサービス
- ・見守り 等

ご視聴ありがとうございました。